

平成20年度 傾斜的研究費（全学分）研究報告書

研究費区分

①都市形成に関わる研究 ②特徴ある教育プログラム開発をめざす研究

研究代表者 所属	都市教養学部 社会学コース	フリガナ 研究代表者氏名	ソエダ アケミ 副田 あけみ	職	教授
研究分担者所 属	都市教養学部	研究分担者氏名	岡 昌之	職	教授
	都市教養学部		永井 徹		教授
	都市教養学部		岡部 卓		教授
	健康福祉学部		山村 礎		准教授
	都市教養学部		矢嶋 里絵		准教授
	都市教養学部		稲葉 昭英		准教授
	都市教養学部		和気 純子		准教授
	都市教養学部		堀江 孝司		准教授
	都市教養学部		榎野 葉月		准教授
	都市教養学部		姜 恩和		助教

研究課題名	大学生のメンタルヘルス支援システム構築に関する研究
-------	---------------------------

研究実績の概要（600～800字で記入。図、グラフ等は記載しないこと。）
<p>本研究は、大学生のメンタルヘルス上の問題に対して、効果的な支援システムを構築するための必要要件を明らかにすることを目的としている。平成19年度は、先行研究の総括と本学の教職員を対象に学生のメンタルヘルス上の問題と支援の実際に関して調査を行った。2年目の平成20年度は、①本学の学生を対象とした質問紙調査と、②他大学での取り組みに関するヒアリング調査を行った。</p> <p>①については、学生のメンタルヘルスと支援ニーズに関する本学の実情を把握するため、本学の全学生に対する自記式質問紙法を用いた調査を実施した。倫理的な配慮と予算制約の中で採用した配布方法に問題があり、準備した調査票数に対して回収率は5%と極めて低いものではあったが、445票の回収率のうち、130人以上が精神上支援が必要な状態であることが明らかになった。学生が活用したいと思う学生支援サービスとしては、所属専攻の教員による個別相談、就職相談員による相談、訓練を受けた専攻分野の先輩による履修相談・生活相談の順で多く挙げられた。</p> <p>②については、他大学における学生支援の先駆的な取り組みについて面接調査を実施した。その結果、学生の抱える問題は多様化しており、その結果二次的にメンタルヘルス上の問題を抱えてしまっている学生が少なくないこと、学生支援システムを有効に機能させるために、充実した学生生活の維持を目的とした総合的な相談窓口の設置や、多種多様な相談部署の連携体制の整備、学生・教職員へのサービスの充実と周知、学生自身の力を活用し支援するシステムづくり、などの取り組みが各大学で行われていることが明らかとなった。</p> <p>これらの結果を踏まえて、総合相談を担当する人材の養成・確保、学生支援部門の合議体の設置、精神科校医の配置、体系的な周知方法およびシステムの整備、ピアサポートシステムなど、メンタルヘルス支援システムに必要な要件を提示した。</p>
学会発表（発表題目、発表大会名、年月を記入）
<p>学会発表 長沼（榎野）葉月、山村礎、副田あけみ、他：学生のメンタルヘルスと相談行動に関する調査（1）—援助要請と援助提供に着目して— 第46回全国大学保健管理研究集会 山村礎、長沼（榎野）葉月、副田あけみ、他：学生のメンタルヘルスと相談行動に関する調査（2）—学生の対人関係と精神状態との関連に着目して— 第46回全国大学保健管理研究集会</p>
論文発表又は著書発行（発表題目、著者、発表誌又は出版社、年月を記入）
報告書「大学生のメンタルヘルス支援システム構築に関する研究」研究成果報告書の刊行